

S05

交叉咬合治療にムーシールド®を用いた一例

井上 浩一郎

(いのうえ小児歯科)

【目的】

近年、乳歯列期（ⅡA期）の反対咬合に対する早期初期治療として、前歯の被蓋改善のためにムーシールド®を用いることが多い。使用法が、就寝時の装着のみであり、比較的、患児への負担が少なく、不快感や痛みもあまりないので、低年齢児でも使用することが可能なためである。今回、交叉咬合改善のために適応した症例について報告する。

【対象と方法】

対象は、非協力とのことで、他院より当院を紹介され来院した3歳4か月の男児で、軽症の齲蝕があり、咬合は、下顎の左方偏位による交叉咬合で、指しゃぶりの習癖がありました。咬合誘導のための資料採得に協力が得られなかったため、所見と保護者からの問診のみにての咬合管理となった。

【結果】

症例：K. N.（初診時3歳4か月の男児）

咬合に関する問題点について、①下顎の左方偏位による交叉咬合である。②指しゃぶりの習癖も今後さらに咬合への影響が生じる可能性がある。ことについて保護者へ説明の上、患児の協力が得られない早期の現段階では、ムーシールド®の使用を勧めた。

装置の使用開始から装着できるまでに約2か月、就寝時の使用が可能になるまでさらに約2か月かかり、そこから約2か月を経て（使用開始から約6か月後）正常咬合へと改善された。

【考察】

本来、反対咬合症例に用いられる本装置ですが、機能的な要因に対するアプローチにより、今回の交叉咬合症例の改善に効果が得られたものと考えられる。

【文献】

- 1) 柳澤宗光：「ムーシールド」による反対咬合の早期初期治療，デンタルダイヤモンド社，2009
- 2) 吉田昊哲：新人ドクターの基礎臨床，東京臨床出版，2004